

2019 年度実施概要

学校名

阪南市立下荘小学校

採択活動名

アマモから繋がる大阪湾再生

取り組みの概要

西鳥取小学校と舞小学校と連携・交流し、地域の下荘漁業協同組合や NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター、NPO 法人環境教育技術振興会と協働して取り組みを実施した。

第5学年（総合、社会、理科、家庭科）

①アマモについての聞き取り学習（5月）【写真1】

- ・地域で活動している NPO などから大阪湾のアマモについて学習する。
- ・アマモの特徴、生態、生育場所、アマモの群落が様々な生物が棲む一種の魚礁としての役割があること、アマモ場の面積減少には人間の経済活動による水質悪化などが大きく関わることを知る。

②アマモ苗植え・生き物観察（5月）【写真2】

- ・前年度に活動して育てたアマモの苗を海に植える。
- ・生き物観察を行う。
- ・海岸の清掃活動をする。

③アマモの花枝の採取（6月）【写真3】

- ・アマモの花枝を採取して漁港で養生する。
- ・生き物観察を行う。
- ・海岸の清掃活動をする。

④アマモの種子の選別（9月）【写真4】

- ・花枝から採取した種子を観察する。

⑤アマモの生態調査（9月）

- ・アマモの生態やアマモ場の機能、再生技術などについて調べる。
- ・海洋プラスチックごみによる被害や環境に優しい取り組みなどについて調べる。

⑥臨海学校に行く。（9月）【写真5】

- ・大阪府立青少年海洋センターを利用し、海でカヌー体験といかだ体験をする。

⑦水産技術センターでの学習（10月）【写真6】

- ・大阪湾の環境の保全・改善を研究していることや大阪湾の豊かな環境を守るために行っている稚魚の育成や放流等について学習する。
- ・社会科で学習している栽培漁業について、現場で働いている方から聞き書きを行う。

⑧漁協の方からの聞き書き（10月）【写真7】

- ・校区の下荘漁港の方から、大阪湾での漁の様子やよく獲れる魚などの話を聞く
- ・おいしい魚料理を教えていただき、食生活を豊かにする。

⑨アマモの苗を育てる（10月）【写真8】

- ・育成キットでアマモを発芽させ、アマモの苗の生長を観察・記録する。

⑩チリメンモンスター探し（11月）

- きしわだ自然資料館の方から、大阪湾でよく獲れる魚や特徴ある魚などの話を聞く。
- チリメンモンスター探しをして、稚魚観察をする。

⑪ワカメの種付け（12月）【写真9】

- 下荘漁協と連携し、ワカメの種系付けをする。
- 海藻の役割や種類について学習する。

⑫3校海洋教育実践報告会（サラダホール）【写真10】

- 西鳥取小、舞小と学習活動報告会を行う。児童同士が交流する場を設ける。

⑬ワカメの収穫と調理実習（2月）【写真11】

- ワカメを収穫し自分たちで調理して食べることで、陸と海との栄養や生命の循環を学ぶ。
- 塩蔵ワカメの作り方を学び、養殖から加工までの一連のつながりを体験することで海を地域産業とのつながりを学ぶ。

⑭自分たちができることを考える（海岸の清掃活動、アマモや海藻の役割を発表する等）。

- 次の学年に引き継ぐ準備をする。

第2学年（生活科）

海辺の活動（9月）

- 下荘漁業の方に協力を得て、地引網体験をする。
- 校区の海に行き、浅瀬で遊び海に親しむ。

活動写真

【写真1】アマモとの出会い



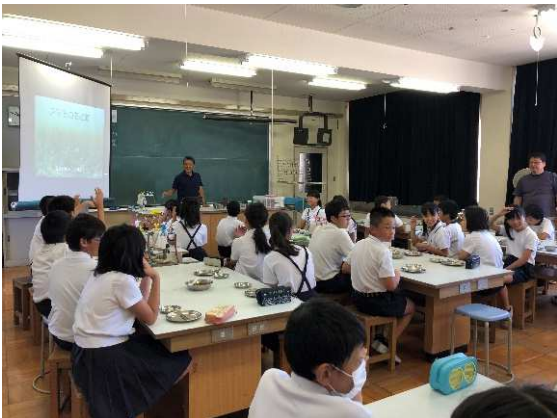
【写真2】アマモの苗植え



【写真3】アマモの花枝観察、地引網体験



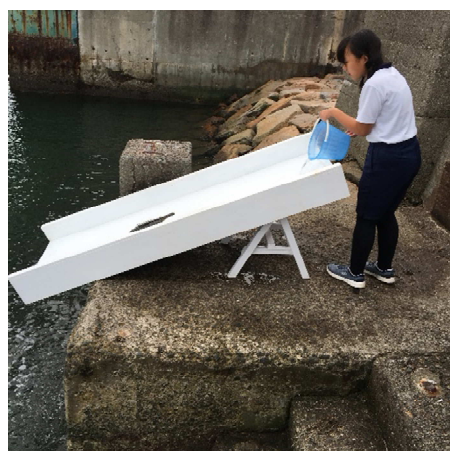
【写真4】アマモの種子選別



【写真5】カヌー体験、いかだ体験



【写真6】水産技術センター見学



【写真7】下荘漁業の方の話



【写真8】アマモの種植え



【写真9】わかめの種系つけ



【写真10】海洋教育実践報告会



【写真11】わかめ収穫



実施単元名

1.アマモを育てよう (1 2)
2.臨海学校 (1 2)
3.栽培漁業 (7)
4. わかめを育てよう (4)
5.実践発表会を開こう (1 1)